
おねがいします

災厄鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おねがいします

【Nコード】

N5198U

【作者名】

災厄鏡

【あらすじ】

目が覚めると

某映画のようなシチュエーション。
なぜこんな事になってしまったのか。
どうしてこんなタイトルなのか。

謎。

混乱の中で

暗い闇で目覚める。

床に一人横たわっている。

ここはどこなのか、いつなのか、なぜここにいるか、分からない。

薄暗いあたりをみわたす。

どうやら狭い部屋のようにだったが、部屋の隅を確認しようにも窓はなく、中心にある青白い電灯が不気味に点滅するばかりである。

頭

が冴えてきて、

立ち上がるうとすると、

鎖の音が静寂をやぶった。

右足に鎖繋がれていた。

その一端は壁につけられている。

「なんなんだよ。なんなんだよこれ」

鎖をがむしやりに振り回してみても全く効果がない。

「何でこんなことに――」

涙が頬をつたう。記憶はめちゃくちゃに壊れている。俺は誰なのか

さえ

そのとき俺は部屋の中に異変を感じた。息を殺し音に耳を澄ませる。

「グースー。グースー。」

いびき？

よく目を凝らしてみる。音が聞こえた正面には重々しい扉があった。そしてその下には……………

こちらに顔を向けてよだれを垂らした男子がいた。

友達？ツウーーーーー

急に頭が痛くなった。

痛みがおさまって、やっとそいつの名前を思い出す。

近寄って名前を呼びかけながら揺さぶる。

「おい。起きろ、朽宮」

「ん、ん？」

寝ぼけた頭で状況を把握しようとしている。

やっと理解したのか急におびえ出す朽宮。

「どうして？ここどこ？」

「大丈夫か？朽宮」

「野上くん。どうなってるの？」

俺にその答えは分からない。

弱々しく俺を見上げる朽宮にたずねる。

「何か覚えていないか。何でもイイ。俺の頭ん中めちゃくちゃで・
」

「野上くんと同じで・・・やくにたてなくてごめん」

「いやいいんだ気にしなくて」

それから少しの間、沈黙に沈んでいた。

静寂に耐えられずに朽宮が口を開く。

「野上くん」

「なんだ、朽宮」

「僕たち誰かに恨まれてるのかな？」

朽宮は泣きそうになっている。

「そんなことないって」

無理やりに笑顔をつくる。

「例え、俺が恨まれることはあっても朽宮はゼツタイない」

しかし、実際にそんな筈はない。

すべての人に好かれるというのは不可能だ。好かれる事が嫌われる
要因にもなる。

だがここまでされる要因なんて分からない。監禁される要因なんて・
・

いろいろな危機的状況下におかれた主人公達は諦めずに、

「絶対大丈夫だ！必ずみんなで助かる方法がある！」と仲間たちを励ましていたが、俺にはとても無理だった。

笑顔も実はひきつっていたかもしれない。

「野上くん」

「どうした」

「なんかちょっとだけ思い出してきた」

「ああ、俺もかすかに」

確かなんかに参加してたような・・・

「いつもみんなでカラオケ行って、いつもの時間にごはん食べて、いつものように・・・」

「俺がお前をバイクで家まで送ってたんだろ」

「うん、でも家についた記憶が無い」

「何かあったのか」

応えは返ってこなかった。

そしてまた音の無い時間が始まる。

無音の極限状態。

全てが信じられなくなって目を閉じ、過去の思い出に逃げる。

何か楽しい事をかんがえよう。そうすればこのおかしい夢はもう終わってる筈。

「なんでないてるのー」

幼き頃の記憶。俺は独りぼっちで公園のすべりだいの下にいた。

” いじめ ”

その時にはなぜ自分がこんなにも辛い思いをしなければいけないのか分からなかった。いや、現在だって納得できているわけではない。ただ全ては運命なのか必然なのか、ひとつの過去として受け止めることができた。現在は過去の積み重ね。

嬉しいとまでは言えないが良かったんだ。

あいつに声をかけられたから。

混乱の中で（後書き）

挨拶。こんにちは。災厄鏡です。
細々とがんばる予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5198u/>

おねがいします

2011年10月30日20時19分発行